

（仮称）古河市新公会堂基本構想・基本計画（案）に関するパブリックコメント実施結果と回答について

（1）計画案の名称：（仮称）古河市新公会堂基本構想・基本計画（案）

（2）実施期間：令和7年8月1日（金）～8月31日（日）

（3）閲覧場所：プロジェクト推進課、古河庁舎市民総合窓口室、三和庁舎市民総合窓口室、福祉推進課、健康づくり課、市ホームページ

（4）意見の提出状況：提出人数18名

（5）ご意見及び回答：下記のとおり

（6）いただきました意見につきましては、原則として原文のまま掲載しております。

受付番号	意見内容（原則として原文のまま掲載）	市の考え方	修正内容
1	せっかく新設するのであればコンサート、ライブ、番組収録、格闘技なども開けるようなものにしてほしい。 また、古河市には映画館が無いのでシネコン併用型もいいと思う。 あとは周辺の商業施設を中途半端なものではなくイオンモール羽生や太田、モラージュ菖蒲、ららばーと富士見レベルのショッピングモールを誘致して市民も他から来場する人にも魅力的な施設にすれば集客も見込めると思います。	事業計画については、今後詳細化する管理運営計画で検討します。 また、商業施設については、より多くの集客が見込めるように魅力的な商業機能となるよう検討します。	（仮称）古河市新公会堂基本構想・基本計画（案）については、修正しないものとします。
2	以前の公会堂では無く、アリーナでレイアウトを変えればコンサートや劇場にも対応出来る施設で駐車スペースも広く駐車混雑しない利用しやすい施設を希望します。	新公会堂の整備については、古河市文化芸術振興基本計画が推進する「市民が文化芸術に参加・参画する場の整備」に資するものと考えます。 また、駐車場については、効率的な駐車スペースを確保するため新公会堂周辺の民間開発における商業施設の駐車場を共有することを検討します。	（仮称）古河市新公会堂基本構想・基本計画（案）については、修正しないものとします。

3	古河市には、まともな図書館がありません。 太田市位の図書館が今回の公会堂に含まれるかに限らず造ってほしい。 古河市には、モールがないため、他市の買い物に困っている。 雇用の面からも、イオン、モラージュ菖蒲、イーパーク筑波位のモールがほしい ショッピングが、狭いと思います。 354までの土地を確保し、モールにしてほしい。	図書館併設については、今回の計画に含まれていません。 また、商業施設については、より多くの集客が見込めるように魅力的な商業機能となるよう検討します。	(仮称)古河市新公会堂基本構想・基本計画(案)については、修正しないものとします。
4	コンサートホールとして機能を果たす大ホールについて コンサートホールとして要になる点は優れた音響効果、音響設計です。 周辺のホールを挙げるとすれば宇都宮市文化会館や水戸市民会館グロービスが挙げられます。 また上記のホールの他ヒロサワシティ会館など響かないと言われているホールについては将来的な集客やホール運営が難しくなると考えます。 ホール周辺に1300人規模のホールがない点を考え周辺の音響設計を超えるホールを目指すことが大切だと考えます。 また首都圏などからの公共交通機関によるアクセスが良好なことなども鑑みプロオーケストラなどのフランチャイズ契約、吹奏楽コンクール地区大会、県大会、支部大会の会場として役割を果たすのではないかと考えます。 古河市のホールとして今後大きな力になると私は考えています。 決して妥協せず真摯にコンサートホール建設を進めるべきだと考えます。 よろしくお願いいたします。	ご意見をいただきました優れた音響効果、音響設計のホールを参考にして施設機能・規模については、引き続き詳細を検討します。 また、ご意見をいただきました大会の会場の役割を参考に事業計画については、今後詳細化する管理運営計画で検討します。	(仮称)古河市新公会堂基本構想・基本計画(案)については、修正しないものとします。
5	計画の策定には座席数1300程度を見直しし、1500以上程度とされたい 1300程度であれば整備すべきでない	大ホールの客席数1300席程度については、各種アンケートやヒアリング調査、ワークショップ、パネル展などで聴取した意見を踏まえ、(仮称)古河市新公会堂基本構想・基本計画市民委員会において、人口推移なども勘案し、審議された客席数となります。	(仮称)古河市新公会堂基本構想・基本計画(案)については、修正しないものとします。

6	公会堂が必要か否か、今更ですがなぜ住民投票をしなかったのでしょうか？ 近隣のエニス、ベルフォーレ、アクロスなどの状況は落語とクラシックの利用ばかり…市民のごく一部の方の利用だと思えます。 もっと、市民生活に密着したものにお金を使って欲しいです。 例えば、全学校にソーラーを設置し快適に学習でき避難所としても活用できる様にするとか、最新のゴミ処理施設を建てるなど。 ホールがない事に、何故こだわるのかわかりません。 ホールがあっても文化レベルは上がらないと私は思います。	（仮称）古河市新公会堂の整備については、ゼロベースで検討をスタートし、令和4年に「（仮称）古河市新公会堂の整備に向けた検討報告書」を策定しました。それを基に令和5年に（仮称）古河市新公会堂基本構想・基本計画市民委員会を設置し、市民の意向や要望を基本構想・基本計画に反映させるため、各種アンケートやヒアリング調査、ワークショップ、パネル展などを実施し、様々な利害関係者から意見を聴取しました。 令和5年度に実施した市民アンケートでは過半数程度の鑑賞活動における潜在的なニーズがあると考えられる回答が得られました。 また、文化芸術活動の拠点となる新公会堂に色々な人々が集まり、新しい文化が生まれ、文化で人々が繋がり、幸福感をもたらすことができると考えます。	（仮称）古河市新公会堂基本構想・基本計画（案）については、修正しないものとします。
7	とねミドリ館でのシンポジウムに参加しました。 収容人数の根拠が市長から示されました。エニスホールの約1.5倍ですね。人口増加の施策は承知していますが、スケールダウンしないと禍根を残すことになりませんか。 中核となる文化拠点の不在が致命的です。適切な運用にハードとソフトの両輪が必要ですが、主体となるソフトが見当たりません。 市民レベルでの実感です。60代よりしたの世代で文化活動に携わる方をほとんどと言っていいくらいは見かけません。 国の方針と個々の経済状態によるものです。立派な施設造っても利用する人が不在ならハコモノになってしまいます。	ハードについては、新公会堂の整備が、古河市文化芸術振興基本計画において推進する「市民が文化芸術に参加・参画する場の整備」に資するものと考えます。 また、ソフトについては、事業計画を今後詳細化する管理運営計画で検討します。	（仮称）古河市新公会堂基本構想・基本計画（案）については、修正しないものとします。

①古河自衛隊駐屯地の火薬庫は、市民に火薬の量が示されません（国の秘密事項）ので、古河市としては、自衛隊の火薬庫の最大保管量を爆薬40トンと、想定して候補地の選定をすべきです。火薬類取締法では、爆薬40トンでは、第1種保安建物は、550mの保安距離が必要と、定めています。自衛隊火薬庫から550m以内に、既に病院、学校、幼稚園、などが離接しています。これを含めて安全な距離を確保するには、自衛隊の火薬庫の移設を行うことです。できなければ、建設候補地としては反対です。

②国道4号、国道354の渋滞は何年経っても改善されません。

③大堤の候補地は水田で、標高も低いところでは、15mです。渡良瀬遊水地の中でも16mですこんな低く、地盤が弱ところに多額の資金を投入することも、賛成できません。

④大堤の新公会堂建設は民間業者の提案ですその業者は、火薬庫の事実を知らないで商業施設や、産業施設、公会堂、ができると判断されたのでしょうか。火薬庫の話が基本計画市民委員会に出たのは最終回の令和7年7月7日でした。

建設候補地2は、市の所有地でない為に18億円が、（地盤改良と用地費取得を含む）1の候補地より余分にかかりそうです。

又、2つの民間業者から提案を貰っているがリース料がいくらののか？情報が少なく不安です。大堤の候補地は民間業者へサウンディングを実施したところ、9社から民間活力を導入した場合でも、事業参画すると回答を得たと記入されていますが、自衛隊の火薬庫の位置、保安距離、などを了解した上での、回答なのか大変疑問です。事業用地17haのうち少しでも制約を受けて利用できない土地が出た場合には、採算が取れない事を理由に事業者は、辞退するかも知れませんが、心配です。

「中間報告版の建設候補地の選定」の新公会堂図面の中心からの距離400mの記入の点線には、自衛隊の火薬庫と見えるものが有りますが、この中間報告版作成の時にこれに気付いて、各委員から意見を求めていれば、1の候補地になった可能性も充分あったのではないかと思います。

旧古河体育館跡地は、古河市の所有地でもあり最終的には古河市の財産です。

駐車場は少し離れていますが、工夫次第で立体にしたり、市民の災害時の避難場所にすれば、安心して使用できます。西側の計画道路が令和15年に完成の見込みらしいですが、早くできれば公会堂の完成も早くなります。市民アンケートによれば、1000席程度ほしい人が25.3%、1300席が7.9%です、それであれば1の候補地に建設を希望します。地形があまりよくないですが、ユニークなアイデアで、ほかの地域にはない楽しい公会堂施設を造って頂きたいと思います。

①、④火薬類取締法施行規則については、火薬庫周辺建物の建築を制限するものではなく、火薬庫所有者が周辺建物に応じて火薬庫を適正に維持管理するものとなります。陸上自衛隊古河駐屯地と協議を実施して、新公会堂建設について、支障はないとの回答でした。

②交通渋滞については、昨年度より「交通影響検討業務」を実施しています。今後は、調査結果を踏まえ、開発に伴う交通影響の軽減対策を検討します。

③新公会堂を含めた開発エリア内の雨水については、開発行為の許可基準に基づき、周辺エリアに影響を与えないよう地盤のかさ上げや調整池を整備し、対応することになるものと考えます。また、今後、基礎調査の結果を踏まえて、市として必要な対策を検討します。

建設候補地については、比較検討した結果、同一敷地内での十分な駐車台数の確保、中型・大型バスなどの利用制限の少なさ、複数のアクセス動線の確保とその安全性などから、本候補地に優位性があり、選定に至ったものと理解しています。また、未来産業用地開発事業（大堤地区）のエリアにもなっており、同一エリア内に新公会堂に加え、商業機能・産業交流機能を有した新たなまちづくり拠点として、賑わい創出に取り組んでいく予定ですので、それらの施設とのシナジー効果を見込めるなど、未来の古河市発展に向けた可能性があることも含めて選定されたものと考えています。

（仮称）古河市新公会堂基本構想・基本計画（案）については、修正しないものとします。

都内で劇場運営しております。多数劇場に巡回しておりますが、気づいた点挙げさせていただきます。

①運営費はこれからのことですが、修繕費（特に10年、20年後の大規模修繕）の予算確保は想定されておりますか？

建物だけではなく、照明音響設備、舞台機構設備、客席の補修など修繕は多岐にわたります。

②施設機能について

- ・搬入口は地上階が望ましい。エレベータは搬入時間（特に大道具などがある演目はエレベータ搬入により、人員、仕込時間が多くなる。また、長物など制限が出る場合がある）、メンテナンスにお金がかかる。
- ・技術スタッフ室は舞台に常駐することが多いため、どの劇場にもアクセスしやすい場所が望ましい。またピアノ、舞台備品もどの劇場にもアクセスしやすい場所に倉庫があるとよい
- ・警備の経費上楽屋口は1か所が望ましい。

③交通について

候補地2は決定でしょうか？4号線の渋滞をご覧になってますか？公演の開場時間約30分の間に想定台数（座席数の半数）が一気に入ってきます。また、終演時同様。迂回路や路面電車、バス専用道など時間通りに入場できる公共交通機関の整備が必要（古河駅から自衛隊に伸びていた道路の使用）

④客席形状について

2層式とのことですが、2階部分の列数がおおいと舞台前方がみえなくなる。また勾配が緩いと同じ目線ではあるが同時に前のお客様にかぶるためみにくくなる。

- ・1階以外を隠せる設備ですが見栄えはよいかもしれないが、メンテナンスを考えると不要ではないか
- ・オーケストラピットは設置しないとのことですが、ミュージカル、オペラなど歌ものは必ず必要になる。

本当に要らないか今一度検討してほしい（例えば前方2間分は張り出し舞台、オーケストラピット、客席など柔軟に対応できるエリアとして機能を残しておくなど）

⑤共用部について

なにか目的、コンセプトがないと造ったものの来場者がこないということにもなりかねない。学習スペースと記載があるが、予定地から近隣の小中学校から遠いし、住宅もありない。参考までに大阪の茨木にある「おにクル」という施設は子育てに特化した施設で年間約200万人

⑥管理運営計画はこれからとのことですが、どのくらいの予算を見込んでいるのでしょうか？いまでさえ、それほど古河市で文化に触れる機会がないのに、施設ができたからと言って予算確保ができるのでしょうか？

①、⑥収支計画については、今後詳細化する管理運営計画で検討します。

②、④、⑤ご意見をいただきました動線を踏まえた配置、客席からの舞台の見え方、来場者の来場目的の明確化を参考にして施設機能・規模については、引き続き詳細を検討します。

③交通渋滞については、昨年度より「交通影響検討業務」を実施しています。今後は、調査結果を踏まえ、開発に伴う交通影響の軽減対策を検討します。

（仮称）古河市新公会堂基本構想・基本計画（案）については、修正しないものとします。

10	◎建設反対（多額の費用がかかる箱物等はない。今のタイミングでない） <人口減少期> 日本人の人口は1億2065万3227人で前年より約90万8000人減（0.75％）。減少数、減少率とも最大となった（総務省人口動態調査） 深刻な少子化を反映しています。 2026年には1億2000万人を下回る可能性が高く日本人の人口は16年連続マイナス。 日本人のうち15～64歳の生産年齢人口割合は59.02％。 65歳以上の高齢者は29.58％ 当然のことながら出生から成人まで20年かかる。 <河川災害リスク増大> 今年の8/5には古河市の気温も40.6℃を記録。 増える大雨頻度、亜熱帯化する日本。日本全国の1時間降水量50mm以上の年間発生回数は1976～2024年の10年間で28.2回増加。 日本の平均気温は世界より早い速度で上がっている。日本の夏（6～8月）の平均気温は長期的には100年あたり1.31℃の割合で上がっている。 アイランドヒート現象の影響などにより上昇率が大きい。 世界平均（0.77℃）より早い速度。 2100年近い未来に感じるが「今の子どもたちが成長して生きる時代」と考えると、今の対策が影響を与える可能性がある。 当然、河川に近い古河市。 水害の頻発化・激甚化リスクは間違いなく高まる。 <戦争リスク（日本を含め）> 国際情勢急変があり得る、今のタイミングで箱物などの建設はできない とりまく外部環境を考慮しても、タイミングが悪いし、ましては、過去に建設中止に決定した案件です！！ ●予定地（大堤沼田地区）が悪い <更地にするまでに余計なお金がかかる> 優良農地の地下コンクリート管撤去、土盛り、排水、用地買収、道路整備など <優性洗淨地区> 大堤交差点立体化は必須。県に申請をしたようですが、創的な改善が見込めるかは未知数。 もともと、いろいろと問題有りの土地。 外部環境のタイミングが熟した時に、問題が少なく建設費用も安くすむところに全市民合意のもと、この建設中止案件を再検討すればよいのではないかと思います。 <将来長期的に固定費発生> 約200億円での建設後の長期的に費用発生懸念 維持管理費用、赤字費用など <民間にまかせる> 全く税金を使用せず、民間の責任の下、民間で建設すればよいのでは。 税金を使用するので、市民がいろいろな懸念しているのですから。 ☆大堤沼田地区は優良農地として昔から整備されている土地。 農地として生かす方法を考慮し、亜熱帯化を助長させない、災害リスク軽減、食料危機対策などに活用 ☆<財源問題（200億円で市民が喜ぶ使い方）> 建設中止により将来の税負担懸念の解消。 古河市新公会堂は、無くても困らない！！ もっと有効に税を全市民が納得いく使い方をしよう！！ 物価高対策。水道料金10年無料、全小中学校体育館クーラー設置、古河駅周辺活性化、地域間格差解消、老朽化インフラ対策など。 同じ200億円使用なら全市民が恩恵を感じる政策が優先。 ☆建設費用約200億円は。全市民（赤ちゃん～お年寄り）の負担は一人当たり約15万円。いっその事、建設予定費用は市民に返還及び将来的に相應の税徴収しない。15万円相当額は、そのまま減税！！	<人口減少や河川災害リスクなどについて> 建設候補地については、未来産業用地開発事業（大堤地区）のエリアになっており、同一エリア内に新公会堂に加え、商業機能・産業交流機能を有した新たなまちづくり拠点として、賑わい創出に取り組んでいく予定ですので、それらの施設とのシナジー効果を見込めるなど、未来の古河市発展に向けた可能性があることも含めて選定されたものと考えています。また、古河市洪水ハザードマップにおいて、利根川、渡良瀬川及び思川における浸水想定区域に指定されていますが、国においても本対象河川の治水対策を実施し、治水安全度は年々増えています。引き続き国や県と協力して治水対策に取り組みます。 <建設候補地について> 建設候補地については、同一敷地内での十分な駐車台数の確保、中堅・大型バスなどの利用制限の少なさ、複数のアクセス動線の確保とその安全性などから、本候補地に優位性があり、選定に至ったものと理解しています。また、本事業の推進については、地権者の皆様の協力が不可欠であり、未来産業用地開発事業（大堤地区）のエリアになっていることから、未来産業用地開発事業（東山田・谷貝地区）の先行事例と同様に、地権者協議会を昨年度に設立し、本協議会の中から選出された役員における大堤地権者協議会役員会を適時開催して協議を進めています。さらに、交通影響については、昨年度より「交通影響検討業務」を実施しています。今後は、調査結果を踏まえ、開発に伴う交通影響の軽減対策を検討します。 <概算事業費と財源について> 本事業については、大きな事業費を伴うことから、有利な財源の確保に努めていきます。また、事業方式については、PPP/PFI（民間活力）を導入する事業方式での整備を念頭に検討し、今後も民間事業者と対話を行い、財政負担の軽減に資する事業方式を検討します。	（仮称）古河市新公会堂基本構想・基本計画（案）については、修正しないものとします。
----	--	---	--

11	1. 地域 BWA 制度に基づく、Free Wi-Fi設備設置と常時無料開放、震災時の避難住民駐車場へのビーム適用の考え (SSID:00000JAPANを利用のキャリアとの事前調整を含む) ① 避難住民の大多数は車により避難実施と想定されます。 ② 一方、近時の生活の習いとして、SNS(LINE, X, Instagram 等)経由で連絡の事実があり避難時には普段に増し利用が想定されます。 ③ また、ペットを帯同の避難の実態からの車での避難が想定されます。 ④ これらのことから、携帯用アクセス手段を予め考慮しておくことは必須です。 ⑤ また、KDDI, NTT, SB等の所謂キャリアは安否情報確認の手段として、非常用 WEB の設立・開放が想定されます。民間の方策次第との考えではなく、自治体の責任とし、平時にインフラ設備(00000JAPAN)を開放してのBCPを予め調整・確認の必要があるものと考えます。 ⑥ あらゆる携帯電話機に対応の充電設備、PC等の充電設備の無料開放は当然です。 2. 新公会堂敷地のみならず、住宅密集地からのアクセス道路確保の考え、特に震災時の具体的対処は(避難場所としての新公会堂利用はアクセス道路の確保が重要)如何公知のハザードマップでは、大規模な住民避難先としての新公会堂予定敷地がありますが、当該敷地は浸水と想定とされています。当然、新公会堂予定の敷地は嵩上げ工事がなされるものと認識していますが、これを活かすためにはアクセス道路の確保が必須と考えます。せめて、隣接の自衛隊の敷地並みの嵩上げが望まれます。 3. 古河市を含む、近隣市町村でも人口減少は現実のものです。新公会堂利用につき、特に稼働率向上の見地から、近隣市町村と共存共栄のための施策(例えば、定期的に調整会議を開催)し、古河市のみならず地域としての新公会堂の利用方法の策定の場資料等を読む限り、新公会堂の観客収容能力は近隣市町村の公会堂に比し、トップクラスのものとなっています。近隣市町村の既存公会堂の多くは建設以来相当の年月を経過しており、昨今の人口減少の実態はあまり想定されていなかった時代の建設と思われる。この社会環境の変化を踏まえて、視点を古河市のみならず、場合によっては県境を越えて広域に視点を転じ、これら市町村との定期的な情報交換を経ての調整機能の発揮の場は、共存共栄のためには必須と考えます。このことは、新公会堂の運用を PPP/PFI(民間活力)を導入方式で民間活力活用と一方的に規程するのではなく、ガバナンスのためにも古河市が管理責任体として先頭に立った施策の具体化が必要と考えます。 4. 既存の高圧送電線、携帯基地局への対処策 新公会堂の建設予定の敷地は比較的に広いことから、既存の高圧送電線及び携帯基地局は現状のままで支障を来さないとのことですが、先々の敷地内建設工事の想定外の発生等があり得るものと想定されます。このことから、将来的にも(可能であれば)、送電線ルート及び携帯基地局の敷地外への支障移転を考慮すべきと思います。 5. 総和地区での公民館設備の集約への新公会堂の利用を考慮すべき 市役所総和庁舎敷地への総和地区内公民館設備の集約を控えておりますが、利用の住民の移動距離が長くなることは明らかどころです。特に高齢者は移動手段確保の問題から利用しづらいことになるのは明かです。この現実から、新公会堂に研修室(会議室・和洋含む)20-30人キャバで4部屋程度確保して利便性の向上及び利活用の向上策を図ってはと考えます。 以上	1.ご意見をいただきました通信体制を参考にして施設機能・規模については、引き続き詳細を検討します。 2.新公会堂を含めた開発エリア内の雨水については、開発行為の許可基準に基づき、周辺エリアに影響を与えないよう地盤のかさ上げや調整池を整備し、対応することになるものと考えます。また、今後、基礎調査の結果を踏まえて、市として必要な対策を検討します。さらに、古河市洪水ハザードマップにおいて、利根川、渡良瀬川及び思川における浸水想定区域に指定されていますが、国においても本対象河川の治水対策を実施し、治水安全度は年々増しており、引き続き国や県と協力して治水対策に取り組みます。 3.ご意見をいただきました広域の視点を参考にして事業計画については、今後詳細化する管理運営計画で検討します。 4.建設候補地については、未来産業用地(大堤地区)のエリアになっており、同一エリア内に新公会堂に加え、商業機能・産業交流機能を有した新たなまちづくり拠点として、賑わい創出に取り組んでいく予定ですので、民間と協議を行いながら、移転などについて検討します。 5.諸室については、社会教育施設との役割分担などを勘案し、適切な諸室配置を検討します。また、交通アクセスの充実を図るため、ぐるりん号など公共交通機関の見直しを行ってまいります。	(仮称)古河市新公会堂基本構想・基本計画(案)については、修正しないものとします。
----	---	---	--

12	公会堂の完成を心待ちにしてしております。 1点、小ホールに關しまして移動観覧席ロールバックチェアでの計画をされているようですが、固定椅子を希望します。 ユーセンターや、加須市みのり、の様な機構ですとギシギシ音がします。また観客の誰かが動くと椅子全体が揺れます。プロの舞台芸術を鑑賞する場合はもちろん、生涯学習や青少年の方たちが日頃練習に励まれている発表を鑑賞する際にも著しく不快になります。 移動観覧席にして大ホール舞台と同程度のフロア面積を造るとのことですが、そのことは別にリハーサル室を作り、小ホールはあくまでも小ホールとして利用することが望ましいと思います。 この先、利用申請する際大ホール利用のリハーサルとして小ホールをフラットにして利用する団体と、小ホールとして利用したい団体との競合がおこり、抽選となり、純粋に小ホールとして利用したい団体が利用できなくなることも容易に考えられます。 私は音楽大学を卒業してからのち演奏活動と並行し約10年間千葉県柏で高校の音楽講師として勤務し、その後現場業務に携わりたくて埼玉県羽生市の産業文化ホールに約10年、その後パストラル加須にて約10年舞台技術者として勤務している者です。 施設利用者さまやプロ・アマ問わず音楽仲間の声も一様に移動観覧席の施設での公演は不快で仕方ないと聞きます。私自身が演奏活動をする際も移動観覧席の施設は極力利用しません。 以上の点から、小ホールも固定椅子の設置を強くご希望します。 どうぞご検討のほどよろしく申し上げます。	小ホールの移動観覧席については、（仮称）古河市新公会堂基本構想・基本計画市民委員会において、市内既存の小ホールとの役割分担や差別化などを勘案し、展示や成果発表による文化団体同士や市内内外の人々の交流機能を有するものとして審議された客席形状となります。 また、いただいたご意見を参考に利用申請の際の懸念を解消できるように運営規則については、今後詳細化する管理運営計画で検討します。	（仮称）古河市新公会堂基本構想・基本計画（案）については、修正しないものとします。
----	---	---	--

13	新公会堂開発計画は下記の点で実現不可能と考えております。 1. 当該地域は、5mの水没地区 2. 向堀川治水問題、地元議員が過去に議会で指摘しております 3. 人件費建築資材高騰により、既にご存知のように世間では昨今、様々な開発計画が中止されている現状です。当該開発計画も当初の179億では不可能と考えます。 4. 地主66世帯全員の合意不可能、前回の開発計画でも問題物件があり開発計画中止された経緯あり 5. 評議員会長も話されておりましたが土地単価がカギになると話されております、前回坪単価3万で提示されましたので、安い金額での合意は無理かと思われます。 6. 根強い建設反対運動、以前の市長のようなりコールが懸念される（特に三和地区では） 7. 下三自治会南地区住民の全員の同意 8. ID4号354などの予想される周辺道路の渋滞問題の解消 9. 古河駐屯地弾薬庫が近い 10. 高圧線などの送電線が通っている。 11. 古河三中のように軟弱地盤の沈下の懸念 12. 稼働率の問題、エニスホール、アクロスでも30％位ですが、今後高い稼働率が見込めない 13. 新公会堂の規模小さいため、メジャーなスターが呼べないのでは？ 14. 未来世代への負の財産、少子高齢化が進む中、有効利用が見込めない 15. 議員の利権排除 16. その他、周辺住民に対する市からの説明も無いため様々な不安	1、2、11新公会堂を含めた開発エリア内の雨水については、開発行為の許可基準に基づき、周辺エリアに影響を与えないよう地盤のかさ上げや調整池を整備し、対応することになるものと考えます。また、今後、基礎調査の結果を踏まえて、市として必要な対策を検討します。さらに、古河市洪水ハザードマップにおいて、利根川、荒良瀬川及び荒川における浸水想定区域に指定されていますが、国においても本対象河川の治水対策を実施し、治水安全度は年々増しております。引き続き国や県と協力して治水対策に取り組みます。 3本事業については、大きな事業費を伴うことから、有利な財源の確保に努めています。また、事業方式については、PPP/PFI（民間活力）を導入する事業方式での整備を念頭に検討し、今後も民間事業者と対話を行い、財政負担の軽減に資する事業方式を検討します。 4、5、6、7、15、16本事業の推進については、地権者の皆様の協力が不可欠であり、未来産業用地開発事業（大塚地区）のエリアになっていることから、未来産業用地開発事業（東山田・谷貝地区）の先行事例と同様に、地権者協議会を昨年度に設立し、本協議会の中から選出された役員における大塚地権者協議会役員会を連携開催して協議を進めています。 8交通渋滞については、昨年度より「交通影響検討業務」を実施しています。今後は、調査結果を踏まえ、開発に伴う交通影響の軽減対策を検討します。 9弾薬庫については、火災予防法施行規則において、弾薬庫周辺建物の建築を制限するものではなく、弾薬庫所有者が周辺建物に応じて弾薬庫を適正に維持管理するものとなります。陸上自衛隊古河駐屯地と協議を実施して、新公会堂建設について、支障はないとの回答でした。 10高圧線については、新公会堂周辺の民間開発と連携して、高圧線を駐車場に活用するなど配置計画を検討します。 12、13、14ご意見をいただきました稼働率や興行の成立、有効利用の懸念を解消できるように事業計画については、今後詳細化する管理運営計画で検討します。	（仮称）古河市新公会堂基本構想・基本計画（案）については、修正しないものとします。
----	---	---	--

14	(1)建設場所は大雨時水没しますので、嵩上げて建設する必要がありますが、その予定は？ (2)古河市の花であるハナモモのデザインを外観や内観、ホールの座席をピンク色に統一して、ランドマークになるような、特色ある斬新な施設にして欲しいです。 (3)座席数が約1300ということですが、古河市の人口規模からして少なく感じます。例えば結城市のアクロスとほぼ同規模ですが、実際に行ってかなり小さく感じました。あと200席増やして1500席が適正ではないかと思います。ご検討お願いします。 (4)建設場所の近隣にショッピングモール計画があるとのことですが、新古河公会堂竣工と同時期にショッピングモール開業が理想的と思いますが、現在の進捗状況を教えてもらえますか。 (5)建設場所の道路新設はなるべく4車線道路で広い歩道を設けて安心して通えるようお願いします。 (6)ぐるりん号等古河駅からバスの運行や発着頻度はどのように考えていますか。 (7)高名なアーティストのコンサートを多数誘致していただけると嬉しいです。 (8)多くの市民がくつろげられる椅子を、多数設置して頂けるとありがたいです。	(1)新公会堂を含めた開発エリア内の雨水については、開発行為の許可基準に基づき、周辺エリアに影響を与えないよう地盤のかさ上げや調整池を整備し、対応することになるものと考えます。また、今後、基礎調査の結果を踏まえて、市として必要な対策を検討します。 (2)、(8)ご意見をいただきました市のシンボルの活用や憩いの場としての役割を参考にして施設機能・規模については、引き続き詳細を検討します。 (3)大ホールの客席数1300席程度については、各種アンケートやヒアリング調査、ワークショップ、パネル展などで聴取した意見を踏まえ、（仮称）古河市新公会堂基本構想・基本計画市民委員会において、人口推移なども勘案し、審議された客席数となります。 (4)建設候補地については、未来産業用地開発事業（大堤地区）のエリアになっており、同一エリア内に新公会堂に加え、商業機能・産業交流機能を有した新たなまちづくり拠点として、賑わい創出に取り組んでいく予定ですので、それらの施設とのシナジー効果を見込めるスケジュールを検討します。 (5)道路については、国や県など関係機関と協議を行いながら、ご意見をいただきました安全性に資するよう検討します。 (6)交通アクセスの充実を図るため、ぐるりん号など公共交通機関の見直しを行ってまいります。 (7)いただいたご意見を参考に事業計画については、今後詳細化する管理運営計画で検討します。	（仮称）古河市新公会堂基本構想・基本計画（案）については、修正しないものとします。
----	---	--	--

15	小ホールの客席を稼働席にするとのことですが、ギシギシと音が鳴ったり、揺れも感じます。座り心地も悪いため、長時間の鑑賞に不向きで聴衆に不快感を与えています。 多目的利用を想定したフラット化ではなく、音響や快適性を重視した「音楽専用ホール」としての整備を強く望みます。 私年に数回、音楽会の開催のためにホールを利用していますが、古河市内にある既存のホールは使い勝手が悪く、一度も使用していません。 音楽文化の推進と市民の芸術活動の場として、より良い音楽環境の整備をぜひご検討ください。	小ホールの移動観覧席については、（仮称）古河市新公会堂基本構想・基本計画市民委員会において、市内既存の小ホールとの役割分担や差別化などを勘案し、展示や成果発表による文化団体同士や市内外の人々の交流機能を有するものとして審議された客席形状となります。	（仮称）古河市新公会堂基本構想・基本計画（案）については、修正しないものとします。
----	--	---	--

16 (1/3)	1990年代から幾つかの地方の文化ホールの状況を見てきましたが、以下のような点が問題としてあります。 音のよいホールを作ってクラシックのコンサートなども行う予定でピアノ以外の大型アコースティック楽器、例えばチェンバロ（ハープシコード）やゴジティブ（小型パイプオルガン）などを導入したホーズでは一般的使用頻度が少ないにもかかわらず調律や維持管理にピアノ以上のコストがかかりランニングコスト問題がある。 以前にスペースJで行われたチェンバロのコンサートでは演奏者が好む楽器を持ち込んでいた。 世界的に有名なメーカーのピアノを導入した所では調律などの維持費が多くかかっている。 地元のイベントや式典では調整室の音響設備を使用するが大きなコンサートや興行では目的に合った設備が常備されているとは限らないためにほとんどの場合イベント会社の持ち込みになり、高価な音響機器などは初期導入はしても使われる頻度が少なく経年劣化による維持費がかかる。 これは照明設備も同様で、今はホールにある照明設備だけでは本格的なコンサートや興行には十分対応しきれない。 プロジェクターやパソコン関連のシステムは導入しても誰もが気軽に使用できる物とは限らない上に性能の更新が早く、すぐに陳腐化してしまう場合があるので初期導入の際は十分検討する必要がある。 古河市もせっかく新しい時代に巨費を投入して建設するわけですから将来に向けてのホールとして無駄のない物を建設していただきたいと思います。 私は音響機材、楽器、照明に関して記載いたします。 将来にわたって20年以上は使用することを考慮して以下の点を挙げさせていただきます。 なお、私はここで記載しているメーカーやそれを取り扱っている業者とは一切関係ありません。 1 楽器関連 (1) 大ホール、小ホールともにグランドピアノを導入する (2) 練習室はアップライトピアノやハンマーアクションのある電子ピアノでもよい。 （現在世界的なピアノメーカーは5社でスタインウェイ、ベーゼンドルファー、ベヒシュタイン、ヤマハ、カワイであるが、湿度による音質変化などを考慮した、調律などのしやすさを考慮するとヤマハかカワイを選択するのが妥当である。高価な海外製のピアノを買うよりはその分練習用などに台数を増やした方が地元の文化振興に効果がある。） (3) 電気楽器や電子楽器を使用するのが当たり前になっているので大ホール、小ホールともに移動式PAスピーカーをステージ上に常設できるようにしておく。ただし、ロックバンドや音楽関連の興業ではイベント側がコンサートに合ったシステムを持ち込み使用するので一時撤去できるようにする。 (4) 電気楽器、電子楽器は種類も多く、かつ、モデルチェンジが速いので一般的な電子キーボード以外は初期投資はせずに、後にこのホールでバンド活動を企画する案が出た段階で必要な物を選定して購入できるような態勢を作る。 (5) 使用者の楽器持ち込みは認める。 (6) ベースアンプ、ギターアンプなど楽器関連機器は音質に直接影響する物であるため「楽器」と見なして考える。ベースアンプやギターアンプは一般的に評価の定まっている物を購入することで練習や演奏の便宜をはかる。（ローランドのジャズコーラスやフェンダーのツインリバーブなど）	ご意見をいただきました各種ホールや諸室に適した楽器の活用を参考にして施設機能・規模については、引き続き詳細を検討します。	（仮称）古河市新公会堂基本構想・基本計画（案）については、修正しないものとします。
---------------------	---	---	--

16 (2/3)	2 ステージの音響 (1) 合唱や演劇、人形劇、そのたアコースティックなイベント用に舞台上に可動式の音響反射板を設ける。(これによりマイクを使用しなくても舞台の音が客席最後部まで伝わりやすくなり演技者にも自分の声がモニターなしではっきり聞こえる。) (2) マイクロフォンはアナウンス、歌唱、楽器などの音をホールや外部に伝えるために複数必要であるが手持ちやステージ上での引き回しなどが多いため堅牢な物を選ぶ。 音の良いホールを建築する場合、設備業者に見積もらせると高級なコンデンサーマイクを見積もることが多いが、マイクroフォンは特に内部のウレタン部分が数年で劣化してしまったりコンデンサーマイクの場合湿気によるノイズの増加などで必ずしも高級な製品が安定しているとは言えないので安定した評価の高い製品を複数選ぶことが音質の面でもコストの面でも有利である。 現在の所ステージでのスピーチ、アナウンス、歌などで安定しているのはシュワー社のSM58(歌番組などで歌手が手持ちで使っている。)や同社のSM57(楽器の集音やアメリカ大統領がスピーチで使っている)などが長期間安定した音質が維持できる。 低音楽器幼でバスドラムやベースの音を拾う際に使われるエレクトロ・ヴォイス(EV)社のRE20は湿度の高い日本では3年程度でウレタンや内部の接着剤が剥がれて集音不可能になることが頻繁にあるので選定の際は代わりにオーディオ・テクニカのATM25やゼンハイザーのMD421などを選ぶことが望ましい。 (3) イベントでは襟元に付けるピンマイクやそれを電波で飛ばして拡声するB型ワイヤレスマイク(が多く使用されるがソニー、ラムサ、DPA、サンケン、ゼンハイザーなど、ピンマイクとして有名な製品を選ぶことで長期間安定して使用できる。 見通し距離で使うのであれば光学式ワイヤレスマイクもノイズの面で大変有利であるため小規模ホールやロビー、ホワイエなどで使用するには良い選択でアル。 ホールの天井から吊してコンサートなどを録音するためのマイクとして、サンケンのCMS2やノイマンのUSM69などを設備業者は音質の面で見積もるが現在はカメラの上に接続できる高音質のマイク付きレコーダーがあるためにそこまでの性能は必要ないことが多く、もし、必要な場合は天吊りではなく床置きや仮設のマイクで十分であるために高価なマイクを常設する必要は少ない。(以前はこの選択は高音質のホールには定番であった。) (3) スピーカーその他の音響設備 A 式典や音楽を伴わないイベントではプロセニアムのスピーカーだけで十分音量が確保できるので地域主体のホールの場合はプロセニアムのスピーカーにコストをかけることが必要でアル。 B 調整室は脇にあるためステージの音を直接聴くためには調整室にモニタースピーカーを設置する必要があるが、モニタースピーカーとして販売されている物の多くはスピーカーがむき出しで前面のユニットが破損しやすいためグリル付きの物を選ぶことは必須条件となる。 C 地域の音楽やダンス、詩吟などの発表などの際に録音したり、既に手持ちの音源などを再生できるようにカセットデッキは必ず常備する。 D 地元のイベントでも調整室で無く客席で音響操作をした方が良い場合があるので調整室から移動のミキサーを客席に持ち出せるようにするとホールの可能性が広がる。なお、その際はケーブル1本で接続できるDanteというデジタル操作可能な調整卓が望ましい。 (Danteシステムは現在プロ用の音響機器メーカー各社が採用している接続方法でケーブル1本で接続可能となる。) E ステージ用音楽用のPASピーカースピーカーとプロセニアムのスピーカーとを調整卓で選んで音を切り替えられるようにする。 F 調整室の設備としてSPXなどの残響付加装置(リバーブレータ)やB型ワイヤレス受信機などを設備することで円滑なステージ使用が可能となる。	ご意見をいただきました催事に適した音響の調整を参考にして施設機能・規模については、引き続き詳細を検討します。	(仮称)古河市新公会堂基本構想・基本計画(案)については、修正しないものとします。
---------------------	--	---	--

16 (3/3)	3 照明設備 (1) 今後舞台照明は急速にLED化するため現在はややコストがかかってもできるだけLED照明を採用する。(今後10年間でキセノンランプやメタルハライドランプなどはLEDに置き換えられると言われている) LED照明を採用することでランニングコストが大幅に改善する。 (2) 現在は調整室や照明機器から離れた場所に照明用操作卓を設けてDMX512でケーブル接続してステージの照明をコントロールする設備があるためこれを採用することで客席で舞台の照明をコントロールできる。 特に照明に関しては今後のコストダウンが見込まれるので10年後、20年後を想定して試算して決定することが望ましいと思う。 4 プロジェクターや映写機 現在はスライドや映画もプロジェクター経由でステージ上のスクリーンに投影する方法が一般化しているのでイベントや講演会などでパソコンをプロジェクターに接続して簡単に投影できるようにすることは必須となる。 以上、ホールに関しては非常時の緊急避難場所としても考慮する必要があると考えています。 壁の残響問題や非常用放送設備を含む館内放送設備とホールの音響設備とは全く異なっていますが観客に明瞭に情報を伝える意味では類似点がありますので音響的な検討も必要となると思います。 また、足りない機材は必要に応じてリースなどで対応することで最新の機材が使用できるためランニングコスト面で有利となります。	ご意見をいただきましたコスト削減に資する照明設備や時代に即した投影方法を参考にして施設機能・規模については、引き続き詳細を検討します。 また、非常時の緊急避難場所については、防災計画との整合を図りながら、一時的な避難への対応を検討します。	(仮称)古河市新公会堂基本構想・基本計画(案)については、修正しないものとします。
---------------------	--	---	--

17	本ホールのお客様方式を検討するにあたり、移動観覧席と固定席の比較を行った結果、固定席を採用することが望ましいと考える。 理由 1. 音響面の安定性 固定席は床面および座席の配置が一定であるため、音響設計通りの響きを得やすい。移動席に見られる隙間や吸音の不安定要素が少なく、演奏環境に適している。 2. 視認性・快適性の確保 固定席は観客の視界や座り心地を考慮して設計されており、常に安定した鑑賞環境を提供できる。特に高齢者や子どもを含む幅広い利用者に対し、安全で快適な座席を保証できる。 3. 耐久性・維持管理の容易さ 固定席は堅牢に設置されており、可動部分の故障が発生しないため長寿命である。結果として維持管理コストも低減される。 4. 安全性の向上 座席が固定されていることにより転倒や設置不良のリスクがなく、非常時における避難動線も明確である。移動席の両サイドは子供が落ちる可能性がある。 5. 美観・高級感の演出 固定席はホール全体の統一感を生み出し、本格的な音楽鑑賞空間としての品位と安心感を観客に与える。多目的ホールはもう必要ありません。 以上、宜しく願い致します。	大ホールの固定席については、 （仮称）古河市新公会堂基本構想・基本計画市民委員会において、（仮称）新公会堂が質の高い演目の鑑賞・上演機能に優れたホールを目指すため、コストや客席の座り心地などを勘案し、審議された客席形状となります。 一方で、小ホールの移動観覧席については、（仮称）古河市新公会堂基本構想・基本計画市民委員会において、市内既存の小ホールとの役割分担や差別化などを勘案し、展示や成果発表による文化団体同士や市内外の人々の交流機能を有するものとして審議された客席形状となります。	（仮称）古河市新公会堂基本構想・基本計画（案）については、修正しないものとします。
----	--	---	--

18	平素より古河市の文化振興にご尽力いただき誠にありがとうございます。新公会堂の整備にあたり、今後より多くの市民が快適に利用できる施設となりますよう、以下の点について要望を申し上げます。 小ホールの座席について 小ホールに可動式の椅子を設置する計画があると伺いました。しかし、近隣施設（ユースセンター、コスモスプラザ、みのりホール等）においては、可動式の椅子が使用されているために、観客が動くたびに「ギシギシ」と音が鳴ったり、座席全体が揺れてしまったりする不具合が生じています。静寂が求められる演奏会や発表会では特に大きな支障となります。そのため、新公会堂の小ホールでは固定式の椅子を導入し、安定した観覧環境を確保していただきたいと強く要望いたします。先日上記のホールでの劇を観覧した際隣に座っていた小学生がじっとしていられなくなり公演中地震かと思うことが何度かありました。 リハーサル利用について 大ホールを利用する際のリハーサルについては、小ホールで実際すると本番と音響条件が大きく異なり、十分な準備ができません。したがって、大ホールでのリハーサル利用を可能にする料金設定、または専用のリハーサル室の設置をお願い申し上げます。 以上の点は、利用者の利便性や快適性を高めるのみならず、古河市の文化事業の質を高め、より多くの人々に支持される施設づくりにつながるものと確信しております。 余談ですがオケピで演奏したいという夢を地元古河市で叶うことを願っております。 どうかご一考の上、改善にご尽力くださいますようお願い申し上げます。	小ホールの移動観覧席については、（仮称）古河市新公会堂基本構想・基本計画市民委員会において、市内既存の小ホールとの役割分担や差別化などを勘案し、展示や成果発表による文化団体同士や市内内外の人々の交流機能を有するものとして審議された客席形状となります。 また、ご意見をいただきました大ホールのリハーサル利用などを参考にして運営規則については、今後詳細化する管理運営計画で検討します。 さらに、施設機能・規模については、引き続き詳細を検討します。	（仮称）古河市新公会堂基本構想・基本計画（案）については、修正しないものとします。
----	---	--	--